



令和3年5月1日現在		
世帯数	2,871	世帯
男	3,301	人
女	3,421	人
総人口	6,722	人

島立地区町会連合会長



藤森 良正

この度、島立地区町会連合会長を仰せつかり

身が引き締まる思いです。昨年来のコロナウイルス感染の拡大で先行きが不透明な環境下、各種活動が制約されております。

町会の皆様方をはじめ、各種関係団体のご支援を賜りながら地域活動が従前どおり開催されます様、よろしくお願い申し上げます。また、松本市の行政・観光・商業の拡がりに、立地的に好位置にある島立は、これからの発展に大きな期待と夢を持てるにふさわしい地域と考えます。私の趣味らしきは「旅すること」。



カツラの芽吹き(小柴)

初めての地を訪れて、新たな発見をすること、これは楽しい。その地域での営みを見だし何より「ゆとりと安らぎ」が得られるから。島立地区町内公民館館長



奥村 猛

この度、島立地区町内公民館館長を拝命いたします。

たしました奥村猛と申します。コロナコロナで1年がたちました。が、いまだに収束の兆しもないどころか、第4波で過去最高の感染者数の報告で毎日ドキドキしております。そんな中でも「如何にして地区活動ができるか」を考えながら1年間微力ながら務めさせていたきたいと思います。

50歳を境にいろいろ今まで憧れていたことを実現してきました。まずは大型オートバイに乗ること。憧れのハーレーダビッドソン。あと3000m級の山岳登山、サクソホンの演奏など、まだまだやりたいことは沢山あります。ちょっとと警戒かもしれませんが60歳を超えても何かに夢中になれることに幸せを感じております。後は、一日の終わりにおいしい酒を飲むことです。そしてまた明日頑張れるとの思いで日々生活しております。



椿散る頃(北栗)

島立地区生活支援員 (第2層生活支援コーディネーター)



松崎 希佳子

4月から島立地区地域づくりセンターに配置

になりました松崎希佳子(三三の宮)です。

主に要介護認定を受けられない高齢者を対象に、困りごとを地域とつなぐ仕事です。

「車の免許を返納して買い物に行かなくなった」「足腰が痛くてゴミ出しや草取りができない」「コロナの影響で外出の機会が減って運動不足」など、ちょっとした生活の困りごとを、地域の取り組みとつなげたり、福祉ひろばや関係機関と一緒に、介護予防の通いの場やサロンを立ち上げたりします。

民生児童委員さんや包括支援センターと必要に応じて情報を共有して、高齢になっても島立で暮らしていけるように支援します。13年間の長い間、福祉ひろばで働かせていただいた経験とつながりを財産に、相談して良かった！と思っていたいただける支援員を目指します。



シバザクラ(中村)

困りごとなどありましたら松崎携帯070-8684-8028へお気軽にご相談ください。

島立っ子森・杜探検隊 風づくり・風揚げ体験

森・杜探検隊では、3月24日(水)に沙田神社の歴史を学び、風づくり・風揚げ体験をしました。地域の皆さんが大切に守り続けてきた神社の歴史を教えてください、境内を歩いたり日頃の感謝をお詣りしたりしました。



思いますが、それぞれの年齢なりにちゃんと感じる事ができるので、身近な場所の歴史を知る良い時間となりました。そして、最近ではあまり見られなくなった風づくり・風揚げ体験にチャレンジし、竹や和紙を使って作り、自由に絵を描いて仕上げました。この日は風が吹いていない穏やかなお天気でしたが、風づくりが仕上げに入る頃にはさわやかな風が吹きはじめ、風揚げの時には頼もしい風が吹いて力作の風を揚げて楽し

代表 木下 明子

むことができました。おまけとして、みずび細工の材料で風車も作りました。松本の伝統工芸であるみずび細工も貴重なものとなっております。昔ながらのあそびや伝統工芸も歴史や文化を学びながら大切にしていきたいものです。

小学生への学習支援を実施

松本大学大蔵研究室

3月21日(日)、29日(月)、30日(火)、31日(水)の4日間、島立公民館と島立体育館で小学生を対象とした「しゅくだいきょうしつ・チャレンジきょうしつ」を開催しました。



これは松本大学大蔵研究室が主催となって大学生による学習支援やレクリエーションを行ったものです。一昨年は夏休み期間に地域の方と協働して大庭公民館で学習支援をしていきましたが、昨年はコロナ禍で開くことができませんでした。新型コロナウイルス対策をどうすればよいか考えながら、形を工夫してようやく春休みに開くことができました。

大学ではオンラインでしか準備をすることができなかつたり、ぎりぎりまで開催できるかどうか分からない状況もあつたりしたので広報に力をかけることができず、子どもたちがたくさん来てくれるかどうか不安でした。「参加してくれる人が日に日に増え、何度も来てくれる人もいたから、頑張って準備してよかった」「久々に子どもたちと関わることができてよい学びの機会になった」と大学生たちは話していました。コロナ禍で制限が多いですが、少しでも豊かな学びを子どもたちができるようにしたい、思いつきり体を動かして気持ち晴れやかにしてほしいという学生たちの思いから生まれた企画を形にすることができ、ご協力くださった地域の方々や公民館の方々に感謝申し上げます。

と関わることができてよい学びの機会になった」と大学生たちは話していました。コロナ禍で制限が多いですが、少しでも豊かな学びを子どもたちができるようにしたい、思いつきり体を動かして気持ち晴れやかにしてほしいという学生たちの思いから生まれた企画を形にすることができ、ご協力くださった地域の方々や公民館の方々に感謝申し上げます。



我が家の花壇(永田)



元気に戻ってきました(南栗)

島立子ども食堂がオープン

島立荒井にある沖繩クラブト&カフェ「ちゅらね」で子ども食堂を始めました。店主の藤森さんにお話を伺いました。

Q 子ども食堂を始めるに至った経緯を教えてください。

A 島立に自店舗を構えた時から何か地域に貢献できることはないかと考えてきました。この度、「松本市子どもの居場所づくり推進事業」の補助金を活用し、信州子ども食堂ネットワークを手掛けるNPOホットライン信州との共催により、実現に至りました。名前は「ゆいまゝる子ども食堂」と名付けました。

Q 「ゆいまゝる」とはどういった意味ですか？
A 「一緒にがんばろう」という沖縄の言葉です。コロナ禍で大変な時期ですが、子ども食堂を通じて安心や元気を提供したい。そういった意味も込めています。



Q 具体的な内容を教えてください。

A 月に1回、午後3時〜午後7時頃までお子さんにカフェスペースを開放し、自由に勉強や読書をして過ごしていただけます。食事も無料で、最大10人の定員を設け、食事は沖縄料理などのお弁当を持ち帰っていただきます。子どもは無料ですが、大人の方には300円程度のカンパをお願いしています。4月21日(水)は、タコライス・ラフテー井・和牛焼肉井の3種

類をご用意し、12人のお子さまにご利用いただきました。



Q 今後の展望をお聞かせください。

A 「ゆいまゝる子ども食堂」はどなたでもご利用いただけます。今後は地元の大学と協働し、大学生による学習支援なども計画しています。地域の皆様方にも子ども食堂の趣旨をご理解いただき、まずは温かく見守っていただけたらと思います。



右：ラフテー井 下：タコライス
左：和牛焼肉井